

1. フィリピンで体得した感染症に関する諸知見について Appreciation of Infectious Diseases through Experiences Gained in the Philippines

¹⁾ 医学部3年, ²⁾ 基本医学語学・人文教育部門, ³⁾ 熱帯病寄生虫病学, ⁴⁾ 国際環境衛生室
関 泰介¹⁾, 入江澄子¹⁾, 森下奈緒子¹⁾, 大久保翔平¹⁾, 大村 圭¹⁾, 松村 薫¹⁾, 道添翔太郎¹⁾, 森田友久¹⁾, 坂口美知子²⁾, 千種雄一³⁾, 大平修二⁴⁾

【目的】フィリピンにおける医療制度と地域医療対策, さらに日本では診られない特に寄生虫関連の感染症とその予防について, 見識を深める.

【方法】現地の患者, 医師・スタッフの協力を得て, 実際にレイテ島, ミンドロ島の医療関連施設を訪問し, 患者診察を含めた, 集団的予防を研修する. さらに, 日本住血吸虫症有病地域にて中間宿主貝の調査を行った.

【結果】レイテ島では Schistosomiasis Research and Training Center において日本住血吸虫症 (Sj 症) の患者 2 名の臨床実習をした. 一名は小学生の男児で, もう一例は中年男性であった. 二名とも腹水を認めた. 中年男性は慢性期患者で, 肝臓超音波検査で Sj 症特有のネットワークパターンが認められた. 同症の予防政策として現在行っている政策についても現地の保健省のスタッフから聞いた. またレイテ島では中間宿主貝の採取, 感染幼虫の検出などを体験した.

ミンドロ島では Tabinay 村の Barangay Health Station で, フィラリア症の女性患者の臨床実習を行った. 本患者は象皮症も認められ, 病気の発症からの経緯についても聞いた. またミンドロ島における Sj 症の対策の実際を体験した. 特に Mass Drug Administration などの予防対策の実施現場を实地研修し, Sj 症の流行地であるナウハン湖周辺の集落やその生活環境, 中間宿主貝を直に視察することができた.

Sj 症とフィラリア症以外に, 結核, 狂犬病や性感染症のフィリピンにおける対策について地域保健省の医療関係者から学んだ.

【考察】日本がかつて行った感染症の対策と異なる対策を行っており, これは, 国情, 時代, 環境等によって同じ疾患でも対策が異なることを示しており, 特に風習や経済状況は実施可能な対策に大きく影響することが感じられ, それらを考慮した政策がなされていると感じた.

【結論】本研修はフィリピンの医療事情, 特に感染症及びその対策について学ぶ上でとても有意義であった. 今回の経験を踏まえてさらに国内と国外の感染症及び医療事情についての視野を広めていきたい.

2. COH : Caring for both children and the elderly

¹⁾ 医学部5年, ²⁾ 語学・人文教育部門
新安祥也¹⁾, 小泉貴子¹⁾, 齋藤 愛¹⁾, 酒徳立三¹⁾, 中村 剛¹⁾, 横山はるか¹⁾, 坂本洋子²⁾

平成 29 年 9 月 3 日～9 月 17 日の 2 週間, アメリカ合衆国ロサンゼルス州にある City of Hope (以下 COH) という病院での研修に参加した. 学んだことの中から特に, COH における小児医療及び高齢者医療の取り組みについてまとめた.

COH Pediatrics (小児医療) の特徴

COH では Child Life Specialist (CLS) の存在が大きい. CLS は, 医療環境にある子供やその家族, または成人病棟の患者の子供に心理社会的支援を提供する専門職である. 遊びを用いながらそれぞれの発達にあった治療, 処置, 手術の説明や教育を行うことで不安やストレスの軽減に努め, 医療に対して受け身になりがちな子供たちが主体的に医療と関わり, 医療体験を乗り越えていけるようサポートしている. 病棟も特徴的であり, 小児病棟は全て個室である. 病室にはテレビゲームや患者の家族が寝るための簡易ソファベッドがある. また 3 つの特別な部屋も存在する.

COH Geriatrics (高齢者医療) の特徴

COH では高齢者専門の Clinical Social Worker (CSW) が常駐する. CSW は患者の様々な状態を評価する. その範囲は身体的な状態のみならず心理的, 社会的, 経済的状況にまで及ぶ. これをもとに患者の抱える様々な不安を解消する手助けをし, 医師が疾患の治療に集中できるように選択肢を提案し環境を整えている.

またサンタテレシア病院 (COH 関連病院) では高齢者介護施設と幼稚園舎が同一敷地内に存在し, 高齢者と子供達の関わり方も特徴的といえる.

アメリカは年齢以外にも日本以上に多様な文化・言語が混在している. COH ではこういった多様性に対し, 小児医療では CLS, 高齢者医療では高齢者専門の CSW のような専門職を置き, 他の医療関係者と連携をとることで細かな対応を可能にしている.

小児, 高齢者に対する医療に必要なことは, 相手の立場に立ち敬意を持って治療を行うこと, 患者を含めた周囲と協力して問題解決に取り組むことであると学んだ.